

創立40周年式典開く

日本家庭用殺虫剤工業会



日本家庭用殺虫剤工業会は創立40周年記念講演会並びにパーティを、6月16日午後4時半から京都市のウエスティン都ホテル京都で開催、会員、賛

助会員、来賓、工業会OBなど多数が参加した。

最初に記念講演会が行われ、大屋洋子氏(電通)の「いまを読みとくキーワード」を全員で聴講、引き続き別室でパーティが行われた。

パーティでは来賓を紹介した後、上山直英会長(大日本除虫菊)が後述の通りあいさつ、来賓を代表して大阪府健康福祉

部薬務課・山本繁富課長と特別会員の住友化学・

福林憲二郎専務があいさつした。乾杯の音頭を全卸連・森友徳兵衛会長が行って開宴、和やかに歓談を繰り広げ、午後7時半に大塚達也副会長(アース製薬)の中締めで解散した。

上山直英会長のあいさつⅡ工業会の歴史を振り返ると、昭和46年に「日本

除虫菊研究所」と「日本除虫菊工業会」が合併して「日本殺虫剤工業会」が発足、そして今から10年前の30周年の時に「日本家庭用殺虫剤工業会」と名称を変更した。

工業会のメンバーは有効成分の開発面でも世界の最先端を走ってきたが、そのデバイスの面でもやはり世界の先頭を走っている。蚊取線香をはじめ、かとりマット、液体かとり、くん煙剤といった商品は、すべて日本で開発されて世界に広ま

った。また今では化粧品や塗料その他に使われているエアゾールを日本で最初に開発したのもこの殺虫剤業界である。近年では、害虫の侵入を防止する虫よけプレートや電池式のかとり、ワンプッシュのエアゾールなどが発売されたが、こういったものはまだ日本にしかない。

明治以降、世界から新しいものを取り入れ、世界を本命にしたがら成長してきた産業はたくさんあるが、殺虫剤産業は日本で独自の発展を遂げ

て、そこから製品が世界へ出て行った数少ない産業だと思う。歴史の古い会員が多く、続けることによつて技術が蓄積され、新しい工夫も生まれてくる。

昭和46年に30社で発足した工業会は32社になった。今まで殺虫剤をいかに安全に正しく使っていたかという知識の普及と、環境に配慮した製品を造るという活動を活動の中心としてきたが、これからもこの活動を続けていきたい。(提供Ⅱ日本商業新聞社)

て、そこから製品が世界へ出て行った数少ない産業だと思う。歴史の古い会員が多く、続けることによつて技術が蓄積され、新しい工夫も生まれてくる。

昭和46年に30社で発足した工業会は32社になった。今まで殺虫剤をいかに安全に正しく使っていたかという知識の普及と、環境に配慮した製品を造るという活動を活動の中心としてきたが、これからもこの活動を続けていきたい。(提供Ⅱ日本商業新聞社)

て、そこから製品が世界へ出て行った数少ない産業だと思う。歴史の古い会員が多く、続けることによつて技術が蓄積され、新しい工夫も生まれてくる。